



A map of the northern part of the Izu Peninsula, Japan, featuring several locations and landmarks. The map includes labels for:

- 利根沼田 (Rigen Nagata)
- あがつま (Agatsuma)
- 赤城たちばな (Akagi Takihana)
- にったみどり (Nitamidori)
- 嬬恋村 (Nishizawa-mura)
- はくくみ (Hakukumi)
- 前橋市 (Maebashi City)
- 北群渓川 (Kita-kunigawa River)
- はくま (Hakuma)
- 太田市 (Ota City)
- 碓氷安中 (Komagome Asochou)
- たかさき (Takasaki)
- 佐波伊勢崎 (Soba Ise崎)
- にったみどり (Nitamidori)
- 甘楽富岡 (Kanra Fugon)
- たのふじ (Tonomofuji)
- 邑楽館林 (Izukogen Kurashiki)

The map also shows the coastline and major rivers of the region.

ちぢみほうれん草は、厚みのある縮れた葉が特徴。葉の生え方も独特で、地面をはうように、円盤状に広がる。甘みが強く、多くの消費者を魅了。冬季限定の品種だ。県内一の産地を擁すJA佐波伊勢崎は13年前、冬場の収入対策として、ちぢみほうれん草部会と二人三脚で品質管理を徹底

Vol.7 ちぢみほうれん草

JA 佐波伊勢崎

伊勢崎市連取町 3096-1 TEL.0270-20-1220

子供の健全育成に一役



少年サッカー大会」として親しまれ、子供たちの夢の実現を後押しし、地域間交流を深める場として定着している。

消費者に収穫を体験してもらう「ファミリー収穫祭」も行っていて、農業の実情や地元農産物の魅力を多くの家族連れに紹介している

の美情や地元農産物の魅力を多くの家族連れに紹介している。



し、ブランド力を高め、販路を広げてきた。今季から生産者の手間を省くため、包装を変更。装いを新たに、生産の一層の拡大を図る。出荷期間は来月20日ごろまで。「からか～ぜ」(伊勢崎市田中町)、「からか～ぜまゆの郷」(同市境百々)を中心に管内の直営直売所6店などで扱っている。

栽培法を統一し
ブランド力強化

栽培法を統一し
ブランド力強化

凍つつく寒気で地表が
凍る季節。ちぢみほうれ
ん草＝写真①は霜に当
たりながら甘みを蓄え、
収穫の時を待つ。霜をま
とい、朝日を浴びた姿は
神秘的ですらある＝写真
②。寒さが厳しいこの時
季は味が最も良くなり、
出荷量もピークに達する。
生産は、赤城山を望む
伊勢崎・境地区が中心＝
写真③。約80人がJA佐
波伊勢崎の部会に所属し、
自分たちで申し合わせた
統一の栽培法を厳格に守
つて育てている。ブラン
ド市さんのが掲げる目
標は高い。

12月初旬から出荷が始
まる。全国各地に送られ
るが、近年は関西で特に人気。
部会長の高木哲夫さん（68）は「昔
は生産者が各市場に送っていたが、
JAは一元集荷で運んでくれ、あり
がたい。安全・安心の野菜が作れる
よう指導してくれ、相談ができるのも
いい」と全幅の信頼を置き、JAに
荷を預けている。



と生産者の交流を深め、
の一役買つていて、消費者から「甘くておいしい
かた」などと手紙が送
られることがある。園芸販売課、柴崎草太さんは
「メッセージの効果」と
強調する。

この袋は統一の栽培法
を厳密に守つたことによ
る高品質を保証してい
て、佐波伊勢崎産の「顔」
になつてゐる。

メツセージ添 家庭と産地結

ら表面にメッセージを、裏面に名前を印刷するデザインに変更した^④。従来は名刺大のカードを袋内に詰めていたが、省力化により、出荷量の増大を後押しさせる。

メッセージには、出荷時期や品質などを解説。消費者と生産者の交流を深めの一役買っていて、消費者から「甘くておいしいかった」などと手紙が送られることがある。園芸販売課、柴崎草太さんは「メッセージの効果」を強調する。

この袋は統一の栽培法を厳密に守ったことによる高品質を保証して、佐波伊勢崎産の「顔になつてゐる。



「煙ごとに糖度検査の必要がある」（園芸販売課長、大石正明さん）。専密な検査に支えられた品質は市場からも好評。他県地より高く、安定した生産量なら8度、年明けから10度に達した生産者だけが出荷できる。JA佐波伊勢崎の検査写真の特徴は、煙ごとに役立つと利点を解説行う点。「生産者1人が栽培面積を拡大し、県数カ所で作付けしている場合、全ての煙で合格する意向だ。

ド力を高めていくのが狙いだ。申し合わせは土作りから種まきの時期、株と株の間隔、収穫の時間帯にまで及ぶ。

土作りは、8月下旬からスタート。畑ごとに土壌分析を行い、必要な成分を加え、全ての畑の条件を均一化する。ちぢみほうれん草専用のブレンド肥料も昨年から本格導入。省力化に大きく貢献している。種まきの期間は9月下旬から10月上旬。味を維持するため、出荷を2月20日ごろまでと制限していることによる。

種まきから約2カ月後、JAの職員と生産者が地区の畑を巡回し、生育状況を確認する。日々の

パスタとオムレ 食卓の主役に

ちぢみほうれん草はおひたしなどの添え物の料理になるケースが多いが、ちぢみほうれん草は期間限定の作物。」A 佐波伊勢崎の伊勢崎地区女性部長伊丹ミチ子さん（70）、副部長の伊藤敏子さん（64）は「ちぢみほうれん草に光を当てて食卓の主役に」とクリームパスタ＝写真⑥＝とチーズオムレツを提案する。

クリームパスタは、ゆでちぢみほうれん草を牛乳と一緒にミキサーにかけてペースト状にし、スパゲティに絡めた料理。具材はベーコンとシメジ。甘みとこくが食欲をそそる。チーズオムレツは、ゆでたちぢみほうれん草とタマネギ、ベーコンを、溶き卵に混ぜて焼くと出来上がり。みずみずしさが魅力の一皿だ。

企画： JA 群馬中央会

取材・制作：上毛新聞社 當選民